

# 同窓会誌

65



**特集** 教育学部ホームカミングデー・シンポジウム  
「卒業生が語る『新しい教育の風』」

**会長報告** 「集い、語り合おう!!  
- 『支部』活動の活性化をめざして -」

**新企画** 「学部教員とメールで解決」

島根大学教育学部同窓会

## 教育学部の2つの玄関

教育学部には2つの玄関がある。1つは現在の正面玄関であり、もう1つはG1にある、かつて正面玄関であった南玄関（通称）である。

### <南玄関>

かつて正面玄関であった南玄関は、昭和43年（1968年）に完成している。この頃は、農科大学の国立移管や経済の高度成長期と相まって、教育研究施設の整備が大いに進んだ時期である。一方、旧制松江高等学校時代の建物が次々と取り壊された時期でもある。

教育棟の西外れにあるこの玄関は、入ると正面にエレベーターが2基あるだけの殺風景なものであった。

玄関に入って右側の廊下沿いに、会計庶務係・事務長室・学部長室・厚生補導長室・教務係などが並び、教職員や学生の往来も賑やかであった。昭和44年の学園紛争時には、この玄関で教員と学生が教育棟の封鎖を防ぐためのピケを張ったこともあった。



かつての正面玄関

### <正面玄関>

現在の正面玄関は、平成19年（2007年）に完成している。平成16年4月、全ての国立大学が法人化された時、この時期の改修工事に合わせて正面玄関をキャンパス中央の位置に変えている。



現在の正面玄関

この玄関は大学のメイン通りの中ほどの左側にある。明るい茶色を基調としたタイル作りの教育棟の壁面の下に、赤い屋根の玄関が教育学部の顔のようにずしりと構えている。

玄関から2階へ上がると、金魚やメダカの水槽・学生向けの掲示・テーブルやいすのおかれたフリースペースがある。ここは学生が簡単な打合せや作業ができるようになっている。そこを北に向かうと事務スタッフルーム・事務長室・学部長室がある。

2の玄関のちがいは、教育学部の歴史やその時代の学生の暮らしぶりがかがえる。

（「母校今昔」シリーズをしばらく続けます。掲載にふさわしい写真がありましたら情報をお寄せください。）

# 目次



母校今昔	表紙裏
巻頭言 このごろ思うこと	白石 隆子 (2)
会長の活動報告「集い、語り合おう!! —『支部』活動の活性化をめざして—」	
	同窓会長 有馬 毅一郎 (4)

## 教育学部最前線

「地域密接型教員養成をミッションとする島根大学教育学部」	
	教育学部長 秋重 幸邦 (6)

## 特集 「卒業生が語る『新しい教育の風』」

□教育学部ホームカミングデー	(14)
□シンポジウム	
・コーディネーター・藤原 恵子	(15)
・報告者・大坂 慎也	(16)
・長谷 剛	(18)
・大谷 淳司	(20)
□シンポジウムのあらまし	(22)
第7回島根大学ホームカミングデー	(23)
私の研究紹介	(24)
学部教員とメールで解決	(26)
ご退職の先生を送る	(30)

## 支部からの声

第2回教育振興奨励賞決定	(57)
--------------	------

## 専攻だより — 研究室はいま —

平成24年度島根大学教育学部卒業研究題目一覧	(59)
平成24年度島根大学大学院教育学研究科修士論文題目一覧	(65)
ただいま活躍中!!	(45)
近況報告	
本部だより	(47) 有志会・同期生会だより (49)
クリックしてね! —島根大学教育学部同窓会ホームページご案内—	(3)
事務局より	(3) (58) (67) (68) (69) (70) (71) (72)
受贈図書紹介	(13) (58) 表紙に寄せて・編集後記 (73)

## 巻頭言



### このころ思ひごと

教育学部同窓会副会長

白石隆子

最近、この言動はどのように考えられた末のものだろうと思うことがたびたびあります。そして、ずいぶん前の授業でのことを思い出します。そこでは、自分の生き方が話題となり、何名かの生徒が自分の考えを述べてくれました。生徒たちはこれからの様々な学びや体験を通して決めていくものと思っていた私の考えは裏切られたのです。ごく身近な大人たちの姿を手本にしてか、十五歳にしてすでに考えが固まり、これ以外は考えられないと明言したことに大変驚いたことが鮮明に思い出されま

す。  
私は高校二年生の時「朝日式討論会」を体験しました。その時、自分の考えを他人に正しく理解してもらおうことができるためには、自分の考えをまとめたら、他人の文章と違って何度も読み、推敲する必要があることを身をもって知りました。そして、物事に関する対立する考え

方について、自分の好みはひとまず置いて、全く逆の結論について客観的に考えることを身につけました。様々な場面で、より良い結論を出すためには、相対する人の立場に立って相対する人の気持ちを考えることを忘れないことが必要であり、自分の考えが決して世の中の常識ではないことをいつも自分に言い聞かせることが大切であることも学びました。また、日課のウォーキングで同じコースを逆回りで歩いてみると一種の違和感とともに同じ場所でも全く違う風景に見え、新鮮さを感じるとともに、物事は見方によって全く違う考えに至ることを改めて実感することしきりです。自分が信じる常識もわれがままもとりのあえず措いて、できうる限りの客観性をもって物事について考えたり行動したりすることこそおもてなしやふるまいの基となり、社会に生きる人としてのあり方につながることを思います。